

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870600735
法人名	株式会社 ジェイコム
事業所名	グループホーム多賀の里
所在地	愛媛県西条市北条231番地1
自己評価作成日	平成27年8月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 27年 10月 13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域の方との交流を密にし、認知症の方でも1人の地域住民として穏やかに過ごしていただけるよう支援しています。又、母体が病院なので医療との連携を密にし、安心して暮らしていただけるようしている。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

玄関先のベンチで職員とひなたぼっこをしている利用者に出迎えられた。穏やかな雰囲気を感じつつ事業所に入ると、その空気は事業所全体を包んでいた。管理者と話していてこの穏やかさを醸し出しているのは、運営法人の「人を大事にする」経営理念が基盤にあり、人を大事にするとは利用者は勿論、職員を大事に育て定着させることで、利用者は落ち着いた生活を保障され安心感につながっているものと思われた。運営法人は医療機関から福祉施設、また在宅支援までシステム化し、地域の福祉資源として信頼を得ている。システム化と言えば冷たい感じを受けるが、それに「思いやり」という血液を通すと暖かくなる事を、この事業所の利用者への寄り添うケアを見ていて感じる事ができた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目
(評価項目の構成)

Ⅰ.理念に基づく運営

Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

Ⅲ.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

Ⅳ.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

● チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名

グループホーム多賀の里

(ユニット名)

壱丁目

記入者(管理者)

氏 名

横田 福雄(目見田 恵子)

評価完了日

平成 27 年 8 月 27 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 全体としての理念又ユニットとして目標理念に基づいて、日々職員同士で話し合い、出来ていない所など注意しながら実践に繋げている。 (外部評価) 事業所では運営法人の理念に則して、事業所独自の理念をエントランスに掲げている。その理念には利用者がこの土地の一員として過ごす事やここで穏やかに暮らす事等を挙げており、地域に密着しようとしている思いが感じられる。事業所は開設から13年が経過しているが、管理者は理念を読み上げるだけに留めず、職員が日々の業務の中に意識できるよう、理念にある言葉の深さを職員に伝えている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 地域との繋がり深く施設に対し協力や提案をして頂き、仕事やボランティア活動等多くの場合で交流をしています。又ボランティア活動として年2回神社の掃除などし施設側も積極的に関わっている。 (外部評価) 田畑に囲まれた鎮守様があり、その周りに小さな集落がつくられた中に事業所はある。昔からの仕来りがあり、その行事に繋がれて事業所は地域と交流を持っている。保守的に捉えられがちな地域に違和感なく事業所がとけ込んでいるのは、管理者を始めとする職員の地域への働きかけの賜物と言えよう。利用者と職員が散歩中に近隣者と立ち話をしている姿を見かけたが、土地に馴染んでいる様子があった。	事業所が開設した当初、職員は利用者がここに馴染むように努力した事が現在でも垣間見る事ができる。近隣者と利用者の紐帯になっている姿勢である。しかし、利用者によっては職員が黒子になった関係が必要と思われ、近隣者と利用者との直接的な関係を支援して欲しい。地域も利用者の特性を理解できていると思われ、利用者が個人として土地の人となり、それをそっと見守る役目が職員であって欲しい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 日々の御利用者様の様子を写真や新聞などで運営推進会議などを通して見てもらっています。又、認知症の勉強会、避難訓練など日時の呼びかけている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている	(自己評価) 2ヶ月に1回外部の方や、利用者様、家族様に参加し て頂き、施設の近況報告や参加者様との話し合いや意 見交換してサービス向上に活かしている。	
			(外部評価) 管理者は、運営推進会議を地域と繋がる場として大切 にしている。毎回、事業所の運営状況を説明し、地域 の動きも丁寧に聞き取っている事が議事録から分か る。事業所の年間行事に則して会議を開き、その事も 議事に入れ話し合いをしている。ただ、隣接している 小規模多機能型施設と合同で開催されているため、事 業ごとの説明が多い事が気になる。事業所の利用者の サービスに直結した内容等も必要と思われる。	事業所の日常に入り込んだ会議を企画してはどうだろ うか。昼食を一緒に取る、リハビリ体操などの日中活 動に参加する、散歩や買い物に同行する等である。そ の後に開催された会議では、職員だけで話し合ってい る事と異なった意見や利用者側に立ったアドバイス等 もあると思われる。年間で1回でも事業所単独で会議 を開催すると、委員に利用者のイメージがより強く 持ってもらえるのではないだろうか。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くように 取り組んでいる	(自己評価) 介護相談員の受け入れ、地域の方々に季節行事の案内 等行い協力関係を築くように取り組んでいる。	
			(外部評価) 運営法人は地域の高齢者福祉の中核を担っており、公 的施設や介護付き有料老人ホームを運営している。特 に有料老人ホームは県内では先駆けて運営をしてい る。他には短期入居者生活介護、デイサービス、居宅 介護支援等があり、法人担当者は、市担当者とは事業 所の事だけではなく、高齢者の全般について話し合っ ている。また、管理者は市担当者とは、利用者の実質 的な相談を行っており、協力関係は堅固である。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準におけ る禁止の対象となる具体的な行為」を正し く理解しており、玄関の施錠を含めて身体 拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 勉強会や外部の研修にて学んでいる。職員一人一人が 利用者様の尊厳を守り、スタッフ同士が目配りしなが ら、防止に努めている。	
			(外部評価) 玄関先で笑顔で出迎えしてくれた利用者から、身体拘 束と無関係の日々を送っている事が理解できる。職員 の見守りがそれを実現させているのである。「身体拘 束ゼロ」は、運営法人が掲げる理念で、北欧の高齢者介 護を手本にしている。研修会は法人内だけでなく、県 内の専門家向けにも開催をしている。利用者が迷子に なった時に「近所の方から電話を頂いた事もありま す」と話す管理者からは、身体拘束ゼロ運動を地域を 巻き込んで実践している事が感じられる。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 勉強会や外部の研修にて学んでいる。スタッフ同士が目配りしながら、見過ごさないよう防止に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 研修に参加したりして職員同士話し合い理解し活用できるようにしている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 十分な説明を行い不安疑問点が、あればいつでも応じ納得を図っている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 入居者様や家族様には意見や要望を言いやすい環境作りに努めている。面会時には意見要望がないか声かけしあればそれぞれに対し話し合い対応している。	
			(外部評価) 利用者それぞれに担当職員がおり、彼らが書いた日常生活報告が事業所から家族に毎月送られている。書かれている内容は食事や入浴、排泄、健常状態の事で、担当者からのコメントもある。これが家族等との会話を豊かにしており、「利用者の状況を踏まえた上で意見等も出ている」と言う話しは信憑性がある。また、利用者に「管理者だから」と距離を置いて欲しくないと、手が空いたら各ユニットに出向き、積極的に会話をするなど、管理者は利用者が意見を出しやすい雰囲気を作っている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 普段かけコミュニケーションを取り面接も行い意見や提案をする事が出来ている。	
			(外部評価) 運営法人は各事業所の独自性を大切にしているようで、管理者が事業所内で話し合った事案に対してはなるべく実現できるようにしている。当事業所でも利用者の外出時に雨に濡れないための提案が通り新たに屋外通路に屋根を付けることになった。利用者の生活の質が上がる提案には、その思いを汲み取っている代表者や管理者も積極的で、職員は意見を出しやすい環境である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 入職時に給与水準や労働時間など話しをしている。職員個々の努力や実績、勤務状況を把握している。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 内部、外部研修など出来るだけ参加してもらい個々のスキルアップに努めている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 相互研修に参加する事で、感じた事や学んだことを他のスタッフに報告し話し合いサービス向上に努めている。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) コミュニケーションをよく取る事で、御本人様に寄り添い関係作りに努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入所前に施設を見学していただいたり御家族様の要望などよく聞き入所時より関係作りに努めている、又、御家族様面会時や電話の時にも、声かけし思いなど聞いている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) サービスの利用を開始するさいは、必ず御本人様と御家族様の思いを聞いている。又サービスが変更するさい等も要望を聞いている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 御利用者様に職員から「ありがとう。」と言うようにしている。御利用者様一人ひとりが出来る事を考え、生きがい、やりがいを感じてもらえるようにしている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) ユニット内や施設などの行事の際は連絡し参加などして頂いている。又、御本人様の言葉に耳を傾け、御家族様に御本人様の情報を聞き施設での様子を報告する。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 馴染みの場所や人との関係を出来るだけ継続できるように、地域資源を活用して支援に努めている。 (外部評価) 利用者は比較的事業所の近くに居住していた人が多く、イベント等で元のご近所さんと出会うことも多い。会場で来所者から「居るかなあっと思って来てみた」との会話が聞ける事は、事業所が普段から関係継続の支援を行っている証である。隣接している小規模多機能型施設の利用者の中にも馴染みの人がいることもあり、関係継続の支援が日常生活に入っている事が分かる。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者様同士の関係が上手くいくように、職員は利用者様の関係や気分の状態を把握し、上手く距離が保てるよう支援している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) サービスが終了しても、必要に応じて本人様や家族様の相談を受け、経過をフォローしている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日頃よりコミュニケーションを多く取り、入浴時や普段の関わりの中から、御利用者様の思いや希望意向の把握に努めている。 (外部評価) 利用者の日々の暮らしを大切にすることをケアの中心に置いているため、職員は利用者それぞれの思いや意向を把握することには余念がない。そのため利用者をよく見て行動の意味を知ることを重視している。先輩職員は「何故こうするのかは、利用者の話を聞けば分かる」と新人職員に指導している。膝をついた状態で車いすの利用者と話し合っている職員からは、利用者理解が浸透している事が伺える。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 出来るだけ生活環境をかえないよう、日々の関わりの中で、御本人様や御家族様に話を聞き情報収集している。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 総合的に把握できるよう、アセスメントシートを作成し、職員同士が情報を共有している。又日常的には気付きを職員同士で話し合い、申し送りノートに記入する事で情報の共有に努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) ユニット会にて日々の御利用者様の様子・体調、食事形態等話し合い、御利用者様、御本人様、御家族様の要望等取り入れながら御本人様に適したケアプランを作成している。	
			(外部評価) 事業所の記録の整備と記載状況を見ると、介護計画もモニタリングもきっちりしている。具体的には、モニタリングは「概ねできている」となっているが、評価には厳しい事が記載されていた。それは、ただやれば良いのではなく、必要なのはそのやり方と受け止め方であり、それを厳しく自己評価した結果と思われる。利用者の生活の質を大切にしている介護計画でありモニタリングである。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 他のスタッフが記録を見ても分かるよう端的にならないような記入をすることに努めている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 御利用者様の運動機能に合わせ車椅子・歩行器、杖、シルバーカーの使用をしている。又、御家族様より歩かせてほしいとの希望もあり、御利用者様の歩行訓練・可動域訓練を行い残存機能低下防止にも努めている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 御利用者様とスタッフで気分転換に外出へ行ったり、季節行事にボランティアや地域の方々に手伝って頂き交流を深めることに努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 御本人様、御家族様の希望するかかりつけの医療を受 けている。状態により御家族様にも同行してもらい、 適切な医療を受けることができるよう支援している。 又、週一回協力医の往診により、日常の健康管理を 行っている。	
			(外部評価) かかりつけ医は利用者それぞれであるが、法人の関連 総合病院が信頼感が高く、往診がシステム化している 事もあり、かかりつけ医としている利用者が多い。シ ステムには訪問看護ステーションも組み込まれてお り、医療的ケアには安心ができる。眼科や皮膚科など は、家族等と連携し支援を行っているが、医療の専門 的な連携は協力医が調整を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 体調の把握に務め、医療や看護師等に報告、指示を受 けている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院時は、きめ細かく主治医や協力病院と連絡を取り 合っている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 文書を作成し、定期的に入居者様の御家族様と話し合 いの場をもち、意見を確認している。	
			(外部評価) 入居時に本人や家族等に、口から栄養摂取が可能であ る事と医療的ケアは難しい事が、事業所で生活できる 条件と説明している。その後の生活の場は、法人の別 機関に移行する事になっている。運営が多角的な法人 だからできる事で、利用者も家族等も安心である。近 年、事業所では訪問看護を利用した看取りを経験して いる。管理者は、社会制度や新たな施設ができ、事業 所も少しずつ変わっている事を実感している。現在、 事業所のできる事、できない事の枠組みをもう一度確 認しながら、利用者の終末期についてを見つめている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 勉強会に参加して、救急の初期対応、応急手当の方法等学び、勉強会に参加していないスタッフには指導して実践力を身につけている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 運営推進会議のときなどに、災害時避難場所の確認、協力を呼びかけしている。地域の方々に避難防災訓練の参加の声かけ参加もしてもらい防災の意識を高めている。 (外部評価) 火災等の災害に対する避難訓練は、事業所の年間行事に組み込まれており、消防署の指導の下で隣接している小規模多機能型施設と一緒にやっている。事業所は3ユニットであり小規模多機能型施設の利用者を入れると大世帯になる。人数が多くなると時間的な問題に直面し、毎回、訓練の大切さを実感している。今後は地域の方も交えて訓練することを目指しており、事業所の災害対策には余念がない。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 御利用者様一人一人を尊敬し、その人にあったケアの仕方を心がけ、自尊心日々を充実に過ごせるように、声かけや対応に気をつけている。 (外部評価) 訪問した時、リビングには穏やかな空気が流れていた。利用者は職員と一緒にリハビリ体操に励んでいる。ありふれた日常であるが、そこには利用者の安心感があった。その安心感は「自分は大事にされている」ということから来ているようだ。男性職員が多い事業所であるが、穏やかさは事業所が大切にしているケアの基本姿勢から来るのであろう。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 御利用者様の思いを、その都度聞きながら支援している。又、上手く表現が出来ない御利用者様については、表情や反応をみたり、御家族様にきいてみたりして支援している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 御利用者様が、どのように過ごしたいか御本人様に聞いたり、希望の言えない方等は御家族様やスタッフと話し合いその日の状態をみながら対応している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 定期的に近所の美容院の方に来て頂き、散髪している。洋服も御本人様に好みに合わせて支援している。希望が言えない御利用者様は、御家族様に好みの洋服を聞き、御本人の反応みながら支援している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 一人一人の好みを聞き、嫌いな物には調理を工夫したりしてバランスの良い食事を提供している。御利用者様に合わせて、細かく刻んだり、水分でむせる方にはトロミをつけたりしている。 (外部評価) 3ユニットあるがそれぞれでメニューが異なっていた。利用者の好みを中心に献立を考えているためである。お粥やミキサー、刻み食にも対応しており、ユニット毎に調理には個性がある。「お客があるのなら寿司を出そう」と利用者のリクエストでちらし寿司をお相伴に与った。また、高齢化している利用者も自分なりの役割を果たして食事に参加しており、利用者それぞれの遣り甲斐を支援している様子であった。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 1日の水分量は記入して把握している。出来るだけ飲んでもらえるように、時間帯や好みの味等を把握している。水分がとれていない方にはジュースにしたり、御本人様の好みに合わせて飲んでもらっている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後行っている。御利用者様が出来ない所等はスタッフが行っている。口腔状態によっては、口腔スポンジを使用により、御利用者様に応じたケアを行っている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 個人の能力に合わせて日中は出来るだけトイレへ誘導し布パンツで過ごせるように援助している。夜間もその方に合わせて紙オムツの種類や介助の時間を工夫して清潔に保つよう支援している。	
			(外部評価) 利用者の殆んどは昼間はトイレで排泄するように支援をしているが、夜間は睡眠を優先するために紙おむつやパットを活用している利用者もいる。利用者の生活の質を見極めた支援と言える。事業所が築14年でトイレの一部が業務優先的な造りになっているが、創意工夫でプライバシー保護と使い勝手が向上するようにしており、職員のやさしさが感じられる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 排便チェック表にて排便状況を把握している。日頃より水分摂取、適度な運動を心がけている。便秘時にはセンナ茶か下剤を服用し排便のコントロールをしている。	
			(外部評価)	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 入浴は毎日午後から行っている。体調や御利用者様の希望に応じて支援している。	
			(外部評価) 入浴は、利用者の寛ぐ時間である事に加え、職員は利用者の全身チェックができる機会と捉えている。前者では入浴を無理強いしないこと、後者には職員の専門的な観察眼を養うことを大切にしている。「あの手この手でもらっています」と笑う職員に、それが徹底している事が理解できた。男性職員が多いが、同性介助を要望する利用者が少ない事が、入浴支援が快いものになっている事を示している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 御利用者様の体調に合わせて自室で休んでもらう時間も工夫している。シーツ等を一週間に1回交換して清潔に気持ちよく眠れるよう支援している。	
			(外部評価)	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 一人一人薬のファイルを作成している、変更があれば申し送りノート、往診ノートに記入しスタッフが共有出来ている。服薬出来ない人はスタッフが介助し飲み込めているか確認している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 個人に合わせて家事に参加してもらったり将棋、塗り絵、唄レク、ハーモニカ演奏等行っている。又、計算問題、脳トレも行っている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 天候の良い日には散歩に出かけたりしている。近くのスーパーに車で買い物に出かけたりしている。 (外部評価) 運営法人が色々な車両を備えているため、車を使っの外出に困ることは無い。そのため遠出には定期的に出かけている。また、日常の外気浴を兼ねた散歩には、庭先から見える神社が最適である。幹線道路から少し入っているため車の往来はなく、安心して散歩が楽しめる。利用者一人ひとりに職員が寄り添っているため、職員自体は長時間歩く場合もある。利用者理解が進む時間でもあるので苦にならないと職員は言うが、利用者の喜ぶ姿を見たい気持ちも大きいようである。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 現在お金を管理出来ない為買い物に時など施設のお金で好きな物を買ってもらっている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) ご希望があればいつでもやり取りができるようになっている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 季節のカレンダーを日々御利用者様に貼り絵、色塗りをして仕上げてリビングに掲示して季節を感じてもらっています。居心地の良い場所となるよう、ソファや机など状況に合わせて活用している。光や音、臭い、温度等にも注意している。 (外部評価) 共用空間は適度な広さで、見渡すと利用者の細かな表情変化が読み取れる大きさである。季節物の展示は欠かせませんと伺った時は、利用者のぬり絵やはり絵で秋を演出していた。台所がオープンであるため料理の匂いが漂ってくるのも家庭的な雰囲気である。冷暖房は完備しているが、なるべく自然の風を入れたいと空気の流れを考え窓の開閉を職員が小まめにしている。窓からは石鎚連峰が見渡せる心地よい共用空間である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) リビング、和室、自室で過ごされる方、他の御利用者様と一緒に過ごされる方、それぞれが思い思いに過ごされている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 御利用者様の使い慣れた家具等を持参して頂けるようお願いして使用している。御家族様との写真や仏具を置いている。御本人様が落ち着くことができる工夫している。 (外部評価) 居室のベッドは介護のことを考え事業所が準備している。ベッドの配置が部屋によって異なっているのは、利用者の身体状況に配慮しているからである。また、利用者によって家具等を持ち込む量に違いはあるが、どの部屋も自分の場所と言う居心地の良さが感じられる。共用空間と適度な距離感を取って居室群を配置している事業所の造りにも居住性の良さが感じられる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 建物内はバリアフリーになっており、各所に手すりを設置している。自室がわかりにくい方もおられ部屋のドアに大きく名前を表示している。トイレやお風呂場も表示している。	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870600735
法人名	株式会社 ジェイコム
事業所名	グループホーム多賀の里
所在地	愛媛県西条市北条231番地1
自己評価作成日	平成 27 年 8 月 31 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 27年 10月 13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域の方と繋がりを大切にし利用者様が安心・安全に過ごせれるよう支援している。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

玄関先のベンチで職員とひなたぼっこをしている利用者に出迎えられた。穏やかな雰囲気を感じつつ事業所に入ると、その空気は事業所全体を包んでいた。管理者と話していてこの穏やかさを醸し出しているのは、運営法人の「人を大事にする」経営理念が基盤にあり、人を大事にするとは利用者は勿論、職員を大事に育て定着させることで、利用者は落ち着いた生活を保障され安心感につながっているものと思われた。運営法人は医療機関から福祉施設、また在宅支援までシステム化し、地域の福祉資源として信頼を得ている。システム化と言えば冷たい感じを受けるが、それに「思いやり」という血液を通すと暖かくなる事を、この事業所の利用者への寄り添うケアを見ていて感じる事ができた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	☐	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	☐	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	☐	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	☐	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	☐	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	☐	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	☐	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目
(評価項目の構成)

Ⅰ.理念に基づく運営

Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

Ⅲ.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

Ⅳ.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

● チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム 多賀の里

(ユニット名) 式丁目

記入者(管理者)

氏 名 武田 良太(目見田 恵子)

評価完了日 27年 8 月 30 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 多賀の里の理念は玄関又名札の裏に記入されている事で一人一人が意識できるよう心かけている	
			(外部評価) 事業所では運営法人の理念に則して、事業所独自の理念をエントランスに掲げている。その理念には利用者がこの土地の一員として過ごす事やここで穏やかに暮らす事等を挙げており、地域に密着しようとしている思いが感じられる。事業所は開設から13年が経過しているが、管理者は理念を読み上げるだけに留めず、職員が日々の業務の中に意識できるよう、理念にある言葉の深さを職員に伝えている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 地域の行事に参加したり、地域の人が多賀の里に来てくれ、コーラスや麦わら細工等ボランティアに来られている。多賀の里の行事、夏祭りやクリスマス会に地域の方に参加して頂き一緒に行事を作り上げている。	
			(外部評価) 田畑に囲まれた鎮守様があり、その周りに小さな集落がつくられた中に事業所はある。昔からの仕来りがあり、その行事に繋がれて事業所は地域と交流を持っている。保守的に捉えられがちな地域に違和感なく事業所がとけ込んでいるのは、管理者を始めとする職員の地域への働きかけの賜物と言えよう。利用者と職員が散歩中に近隣者と立ち話をしている姿を見かけたが、土地に馴染んでいる様子があった。	事業所が開設した当初、職員は利用者がここに馴染むように努力した事が現在でも垣間見る事ができる。近隣者と利用者の紐帯になっている姿勢である。しかし、利用者によっては職員が黒子になった関係が必要と思われ、近隣者と利用者との直接的な関係を支援して欲しい。地域も利用者の特性を理解できていると思われ、利用者が個人として土地の人となり、それをそつと見守る役目が職員であって欲しい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 行事などを通じて認知症の方へ関わる機会を提供する事で啓発、理解を深めて頂くようにしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) パワーポイントを使用し行事の様子、日々の様子の紹介利用者様の現状報告及び運営状況の報告、行事等の参加依頼を行っている。地域の方家族様から意見を聴きサービスの向上に努めている。施設で行っている勉強会への参加を呼びかけたり、報告をしている。	
			(外部評価) 管理者は、運営推進会議を地域と繋がる場として大切にしている。毎回、事業所の運営状況を説明し、地域の動きも丁寧に聞き取っている事が議事録から分かる。事業所の年間行事に則して会議を開き、その事も議事に入れ話し合いをしている。ただ、隣接している小規模多機能型施設と合同で開催されているため、事業ごとの説明が多い事が気になる。事業所の利用者のサービスに直結した内容等も必要と思われる。	事業所の日常に入り込んだ会議を企画してはどうだろうか。昼食を一緒に取る、リハビリ体操などの日中活動に参加する、散歩や買い物に同行する等である。その後に開催された会議では、職員だけで話し合っている事と異なった意見や利用者側に立ったアドバイス等もあると思われる。年間で1回でも事業所単独で会議を開催すると、委員に利用者のイメージがより強く持ってもらえるのではないだろうか。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会へ参加して頂き、意見交換を行っている。	
			(外部評価) 運営法人は地域の高齢者福祉の中核を担っており、公的施設や介護付き有料老人ホームを運営している。特に有料老人ホームは県内では先駆けて運営をしている。他には短期入居者生活介護、デイサービス、居宅介護支援等があり、法人担当者は、市担当者とは事業所の事だけではなく、高齢者の全般について話し合っている。また、管理者は市担当者とは、利用者の実質的な相談を行っており、協力関係は堅固である。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束については、研修や施設で勉強会を行ったり、ユニット内でも話し合い身体拘束のない暮らしができるよう支援している。	
			(外部評価) 玄関先で笑顔で出迎えしてくれた利用者から、身体拘束と無関係の日々を送っている事が理解できる。職員の見守りがそれを実現させているのである。「身体拘束ゼロ」は、運営法人が掲げる理念で、北欧の高齢者介護を手本にしている。研修会は法人内だけでなく、県内の専門家向けにも開催をしている。利用者が迷子になった時に「近所の方から電話を頂いた事もあります」と話す管理者からは、身体拘束ゼロ運動を地域を巻き込んで実践している事が感じられる。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 身体拘束・虐待の勉強会を行い防止に努めている。また入浴時等身体の状態をチェックし記録する事でアザなどが見過ごされる事がないようにしている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 権利擁護に関する資料を誰でもみれる所に常設しており、制度が必要な利用者様がいたなら、関係機関への橋渡しをしている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 施設長が契約などについて話しをしている。介護保険の修正の理由を説明し理解して頂いている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 2ヶ月に1回運営推進会を行い、サービスの質の向上に繋げている。	
			(外部評価) 利用者それぞれに担当職員がおり、彼らが書いた日常生活報告が事業所から家族に毎月送られている。書かれている内容は食事や入浴、排泄、健常状態の事で、担当者からのコメントもある。これが家族等との会話を豊かにしており、「利用者の状況を踏まえた上で意見等も出ている」と言う話しは信憑性がある。また、利用者に「管理者だから」と距離を置いて欲しくないと、手が空いたら各ユニットに出向き、積極的に会話をするなど、管理者は利用者が意見を出しやすい雰囲気を作っている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 月に1回ユニット会を行い、職員の意見や提案を聞く機会を設け改善していこうとしている。 (外部評価) 運営法人は各事業所の独自性を大切にしているようで、管理者が事業所内で話し合った事案に対してはなるべく実現できるようにしている。当事業所でも利用者の外出時に雨に濡れないための提案が通り新たに屋外通路に屋根を付けることになった。利用者の生活の質が上がる提案には、その思いを汲み取っている代表者や管理者も積極的で、職員は意見を出しやすい環境である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 就業環境を整える事により、気持ちに余裕を持って仕事ができサービスの質の確保に繋がっている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 研修や勉強会積極的に参加することで、介護技術の向上を図っている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 勉強会、相互研修などを通じて他の施設との交流をもち、サービスの質向上を図っている。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 本人が自宅で生活していた時のように利用して頂くために、利用者様の訴えを理解し、傾聴することで信頼関係づくりに努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等 が困っていること、不安なこと、要望等に 耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入所前には、施設内を見学して頂き利用者様、家族様 の不安や要望を理解するようにしている。ご家族様と の連絡を密にしている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と 家族等が「その時」まず必要としている支 援を見極め、他のサービス利用も含めた対 応に努めている	(自己評価) 家族様、本人様と話し合い、希望や情報を得ながら日 常生活全般において支援できるように努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場にお かず、暮らしを共にする者同士の関係を築 いている	(自己評価) 利用者様一人一人が活躍できる場を作り職員が感謝の 気持ちを伝える事ができるような場面作りに努めている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場にお かず、本人と家族の絆を大切にしながら、 共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族様にカルテを見てもらい、どのように生活してい るか知ってもらう事でどのような支援が必要かを一緒 に考えてもらっている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人 や場所との関係が途切れないよう、支援に 努めている	(自己評価) 行事やドライブなどで、ご近所の人に会い話しをし たり、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう に努めている。 (外部評価) 利用者は比較的事業所の近くに居住していた人が多 く、イベント等で元のご近所さんと出会うことも多 い。会場で来所者から「居るかなあと思って来てみ た」との会話が聞ける事は、事業所が普段から関係継 続の支援を行っている証である。隣接している小規模 多機能型施設の利用者の中にも馴染みの人がいるこ ともあり、関係継続の支援が日常の生活に入っている 事が分かる。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者様同士の関係が上手くいくように職員が間に入り支えあえるような支援に努めている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 必要に応じて相談や支援を行っている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 一人一人の思いや暮らし方の希望は日々の関わり（表情・会話）の中から把握できるよう努めている。 (外部評価) 利用者の日々の暮らしを大切にすることをケアの中心に置いているため、職員は利用者それぞれの思いや意向を把握することには余念がない。そのため利用者をよく見て行動の意味を知ることが重視している。先輩職員は「何故こうするのかは、利用者の話を聞けば分かる」と新人職員に指導している。膝をついた状態で車いすの利用者と話し合っている職員からは、利用者理解が浸透している事が伺える。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 本人様や家族様、知人などから話を聞き情報収集に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 変化がある為、職員同士が声を掛け合いながら現状の把握に努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 本人様や家族様に要望を聞き、職員で話し合いユニット会で介護計画書に取り入れている。	
			(外部評価) 事業所の記録の整備と記載状況を見ると、介護計画もモニタリングもきっちりしている。具体的には、モニタリングは「概ねできている」となっているが、評価には厳しい事が記載されていた。それは、ただやれば良いのではなく、必要なのはそのやり方と受け止め方であり、それを厳しく自己評価した結果と思われる。利用者の生活の質を大切にしている介護計画でありモニタリングである。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) カルテや申し送りノートに記入し、情報の共有に努めている。わからない事があればカンファレンスなどし共有に努めている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) その時の状況に応じて対応している。又、本人様や家族様の意見を聴きできるだけ応えるように取り組んでいる。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 神社へお参りに行ったり、馴染みの美容室へ行ったり、夏祭りで地域の方々に協力して頂き地域との関わりを大切にし、安全で豊かな暮らしができるように努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 本人様、家族様が希望される病院への受診を適宜行え るよう支援している。	
			(外部評価) かかりつけ医は利用者それぞれであるが、法人の関連 総合病院が信頼感が高く、往診がシステム化している 事もあり、かかりつけ医としている利用者が多い。シ ステムには訪問看護ステーションも組み込まれてお り、医療的ケアには安心ができる。眼科や皮膚科など は、家族等と連携し支援を行っているが、医療の専門 的な連携は協力医が調整を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 利用者様の状態変化がみられれば、看護師に相談し、 状態によって担当医へ相談し、適切に対応できるよ うに支援している。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 主治医や看護師と連携を図り、利用者様の身体状況に 応じて入退院の支援を行っている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 入所時、または状態の変化に応じてその都度家族様と 話し合いを行っている。	
			(外部評価) 入居時に本人や家族等に、口から栄養摂取が可能であ る事と医療的ケアは難しい事が、事業所で生活できる 条件と説明している。その後の生活の場は、法人の別 機関に移行する事になっている。運営が多角的な法人 だからできる事で、利用者も家族等も安心である。近 年、事業所では訪問看護を利用した看取りを経験して いる。管理者は、社会制度や新たな施設ができ、事業 所も少しずつ変わっている事を実感している。現在、 事業所のできる事、できない事の枠組みをもう一度確 認しながら、利用者の終末期についてを見つめてい る。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 救急救命士による勉強会に参加し、緊急時の対応やAEDの使い方を身につけている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 消火避難訓練の度に、消火器の使い方や火災通報の仕方の確認を行うようにしている。 (外部評価) 火災等の災害に対する避難訓練は、事業所の年間行事に組み込まれており、消防署の指導の下で隣接している小規模多機能型施設と一緒にやっている。事業所は3ユニットであり小規模多機能型施設の利用者を入れると大世帯になる。人数が多くなると時間的な問題に直面し、毎回、訓練の大切さを実感している。今後は地域の方も交えて訓練することを目標にしており、事業所の災害対策には余念がない。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 利用者様一人一人の人柄を知り、その人に合った言葉かけをするようにしている。 (外部評価) 訪問した時、リビングには穏やかな空気が流れていた。利用者は職員と一緒にリハビリ体操に励んでいる。ありふれた日常であるが、そこには利用者の安心感があった。その安心感は「自分は大事にされている」と思うことから来ているようだ。男性職員が多い事業所であるが、穏やかさは事業所が大切にしているケアの基本姿勢から来るのであろう。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 動作や表情などをみて、その方が望んでいる事に気付くようにしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 利用者様のペースに合わせて、接するようにしている。又、一人一人が望んでいる事を少しでも実行できるようにしている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 洋服選びは、職員がすることが多い。その日の気候に合わせて、洋服を選ぶようにしている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) できる方は、その日の体調をみて調理の準備や、片付けをして頂いている。 (外部評価) 3ユニットあるがそれぞれでメニューが異なっていた。利用者の好みを中心に献立を考えているためである。お粥やミキサー、刻み食にも対応しており、ユニット毎に調理には個性がある。「お客があるのなら寿司を出そう」と利用者のリクエストでちらし寿司をお相伴に与った。また、高齢化している利用者も自分なりの役割を果たして食事に参加しており、利用者それぞれの遣り甲斐を支援している様子であった。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 一人一人に合わせて、刻み食や普通食を提供している。また、水分量が少ない方は、お茶以外に牛乳やコーヒー甘酒等好みの飲み物を提供している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 食事が終わった方には、口腔ケアの声をかけるようにしている。義歯を清潔に保つように心がけている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 個々の排泄パターン、習慣を把握して失敗やオムツの使用を減らせるよう声掛け誘導をしている。排泄動作など余計な手は出さずできる事は見守り、声掛けでして頂くよう支援している。	
			(外部評価) 利用者の殆んどは昼間はトイレで排泄するように支援をしているが、夜間は睡眠を優先するために紙おむつやパットを活用している利用者もいる。利用者の生活の質を見極めた支援と言える。事業所が築14年でトイレの一部が業務優先的な造りになっているが、創意工夫でプライバシー保護と使い勝手が向上するようにしており、職員のやさしさが感じられる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) できる限り、身体を動かす機会を作っている。水分補給食物繊維を多く含む食べ物を提供している。自然排便が困難な方には緩下剤を使用している。	
			(外部評価)	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 本人様の希望や体調、疾病などを考慮して入浴を少しでも楽しめるよう支援している。声かけのタイミングなど工夫して清潔を保てるよう努めている。	
			(外部評価) 入浴は、利用者の寛ぐ時間である事に加え、職員は利用者の全身チェックができる機会と捉えている。前者では入浴を無理強いしないこと、後者には職員の専門的な観察眼を養うことを大切にしている。「あの手この手で入ってもらっています」と笑う職員に、それが徹底している事が理解できた。男性職員が多いが、同性介助を要望する利用者が少ない事が、入浴支援が快いものになっている事を示している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 日中、その方の体調、表情などで休憩できるよう声かけ介助を行っている。夜間は個々に応じて声かけ、見守りを行い安心できるよう努めている。	
			(外部評価)	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 個々の疾病を理解して薬を服薬する目的を知る事ができている。副作用については看護師の指示、説明書を読むこと用法・容量についても同様に理解できるように努めている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 本人様が興味を持っている事、楽しみなど日々の会話や行動から理解して、できる事を支援している。食事の手伝いや洗濯など個々が役割を持てるよう努めている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 近くの神社や施設付近の散歩など気分転換ができるよう支援しているが、その時の状況により本人様の希望通り支援できない時がある。 (外部評価) 運営法人が色々な車両を備えているため、車を使つての外出に困ることは無い。そのため遠出には定期的に出かけている。また、日常の外気浴を兼ねた散歩には、庭先から見える神社が最適である。幹線道路から少し入っているため車の往来はなく、安心して散歩が楽しめる。利用者一人ひとりに職員が寄り添っているため、職員自体は長時間歩く場合もある。利用者理解が進む時間でもあるので苦にならないと職員は言うが、利用者の喜ぶ姿を見たい気持ちも大きいようである。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 金銭を所持されている方はいないが、本人様と買い物に行く際は、家族様の了解、購入した物を写真でとり説明したりしている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 手紙のやりとりを希望される方はいないが、電話をしたいと言われる方がいた場合は、やりとりが支援できるよう努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) できる限り混乱を招かないように、一人一人に合った工夫をし、それぞれが過ごしやすい環境作りを心がけている。	
			(外部評価) 共用空間は適度な広さで、見渡すと利用者の細かな表情変化が読み取れる大きさである。季節物の展示は欠かせませんと伺った時は、利用者のぬり絵やはり絵で秋を演出していた。台所がオープンであるため料理の匂いが漂ってくるのも家庭的な雰囲気である。冷暖房は完備しているが、なるべく自然の風を入れたいと空気の流れを考え窓の開閉を職員が小まめにしている。窓からは石鎚連峰が見渡せる心地よい共用空間である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 気の合った利用者様同士ですごしたり、プライベートを大切に空間作りをするよう工夫している。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) それぞれの部屋は、長年使用していた家具を使用し、配置も本人様や家族様と相談しながら工夫している。	
			(外部評価) 居室のベッドは介護のことを考え事業所が準備している。ベッドの配置が部屋によって異なっているのは、利用者の身体状況に配慮しているからである。また、利用者によって家具等を持ち込む量に違いはあるが、どの部屋も自分の場所と言う居心地の良さが感じられる。共用空間と適度な距離感を取って居室群を配置している事業所の造りにも居住性の良さが感じられる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 居室やトイレが分かるように貼り紙をし自立した生活が送れるように工夫している。	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870600735
法人名	株式会社 ジェイコム
事業所名	グループホーム多賀の里
所在地	愛媛県西条市北条231番地1
自己評価作成日	平成27年8月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 27年 10月 13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者が穏やかで生き生きと社会生活を営めるように、一人ひとりの生活のペースを大切に、残存能力に配慮した支援が行えるように、日々努力しています。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

玄関先のベンチで職員とひなたぼっこをしている利用者に出迎えられた。穏やかな雰囲気を感じつつ事業所に入ると、その空気は事業所全体を包んでいた。管理者と話していてこの穏やかさを醸し出しているのは、運営法人の「人を大事にする」経営理念が基盤にあり、人を大事にするとは利用者は勿論、職員を大事に育て定着させることで、利用者は落ち着いた生活を保障され安心感につながっているものと思われた。運営法人は医療機関から福祉施設、また在宅支援までシステム化し、地域の福祉資源として信頼を得ている。システム化と言えば冷たい感じを受けるが、それに「思いやり」という血液を通すと暖かくなる事を、この事業所の利用者への寄り添うケアを見ていて感じる事ができた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目
(評価項目の構成)

Ⅰ.理念に基づく運営

Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

Ⅲ.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

Ⅳ.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名

グループホーム多賀の里

(ユニット名)

参丁目

記入者(管理者)

氏 名

矢野貴之(目見田恵子)

評価完了日

27年 8 月 29 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 施設内に理念を掲示し、意識するようにしている。 「穏やかで生き生きと社会生活を営めるよう質の高いサービス提供する」ことを継続し、ケアに行き詰った時には理念を振り返り実践に努めるようにしている。 (外部評価) 事業所では運営法人の理念に則して、事業所独自の理念をエントランスに掲げている。その理念には利用者がこの土地の一員として過ごす事やここで穏やかに暮らす事等を挙げており、地域に密着しようとしている思いが感じられる。事業所は開設から13年が経過しているが、管理者は理念を読み上げるだけに留めず、職員が日々の業務の中に意識できるよう、理念にある言葉の深さを職員に伝えている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 地域自治会や郷土芸能保存会の方たちの協力を仰ぎながら地域との交流を図っている。地域の方から色々な行事などアイデアを頂き参加してくれています。又こちらでも地域の行事など声をかけて頂き参加しています。 (外部評価) 田畑に囲まれた鎮守様があり、その周りに小さな集落がつくられた中に事業所はある。昔からの仕来りがあり、その行事に繋がれて事業所は地域と交流を持っている。保守的に捉えられがちな地域に違和感なく事業所がとけ込んでいるのは、管理者を始めとする職員の地域への働きかけの賜物と言えよう。利用者と職員が散歩中に近隣者と立ち話をしている姿を見かけたが、土地に馴染んでいる様子があつた。	事業所が開設した当初、職員は利用者がここに馴染むように努力した事が現在でも垣間見る事ができる。近隣者と利用者の紐帯になっている姿勢である。しかし、利用者によっては職員が黒子になった関係が必要と思われ、近隣者と利用者との直接的な関係を支援して欲しい。地域も利用者の特性を理解できていると思われ、利用者が個人として土地の人となり、それをそつと見守る役目が職員であって欲しい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 2か月に1回の運営推進会議やボランティアさんの訪問時に意見交換・情報交換を行っている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている	(自己評価) 市担当者や民生委員、地域の方が出席し、日々のご利 用者生活の様子や、職員研修の報告を行っている。	
			(外部評価) 管理者は、運営推進会議を地域と繋がる場として大切 にしている。毎回、事業所の運営状況を説明し、地域 の動きも丁寧に聞き取っている事が議事録から分か る。事業所の年間行事に則して会議を開き、その事も 議事に入れ話し合いをしている。ただ、隣接している 小規模多機能型施設と合同で開催されているため、事 業ごとの説明が多い事が気になる。事業所の利用者の サービスに直結した内容等も必要と思われる。	事業所の日常に入り込んだ会議を企画してはどうか。昼食を一緒に取る、リハビリ体操などの日中活 動に参加する、散歩や買い物に同行する等である。そ の後に開催された会議では、職員だけで話し合ってい る事と異なった意見や利用者側に立ったアドバイス等 もあると思われる。年間で1回でも事業所単独で会議 を開催すると、委員に利用者のイメージがより強く 持ってもらえるのではないだろうか。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くように 取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議で、相談事にその都度快く対応して下 さっている。	
			(外部評価) 運営法人は地域の高齢者福祉の中核を担っており、公 的施設や介護付き有料老人ホームを運営している。特 に有料老人ホームは県内では先駆けて運営をしてい る。他には短期入居者生活介護、デイサービス、居宅 介護支援等があり、法人担当者は、市担当者とは事業 所の事だけではなく、高齢者の全般について話し合っ ている。また、管理者は市担当者とは、利用者の実質 的な相談を行っており、協力関係は堅固である。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準におけ る禁止の対象となる具体的な行為」を正し く理解しており、玄関の施錠を含めて身体 拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 日中はもちろん、夜間も玄関のみの施錠で身体拘束は 行っていない。	
			(外部評価) 玄関先で笑顔で出迎えしてくれた利用者から、身体拘 束と無関係の日々を送っている事が理解できる。職員 の見守りがそれを実現させているのである。「身体拘 束ゼロ」は、運営法人が掲げる理念で、北欧の高齢者介 護を手本にしている。研修会は法人内だけでなく、県 内の専門家向けにも開催をしている。利用者が迷子に なった時に「近所の方から電話を頂いた事もありま す」と話す管理者からは、身体拘束ゼロ運動を地域を 巻き込んで実践している事が感じられる。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 職員全員、虐待についての知識は理解できており、勉強会も行っている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) いざという時に、ご利用者や家族様が困らないように、権利擁護の研修にも参加している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入居契約時、十分な話し合いをもっている。入居以後も疑問点、不安な事があれば、その都度説明し納得していただけるようにしている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 家族会や定期的な面会や電話連絡の際、些細な事でもお話しいただき、改善点があれば、職員で話し合っている。	
			(外部評価) 利用者それぞれに担当職員がおり、彼らが書いた日常生活報告が事業所から家族に毎月送られている。書かれている内容は食事や入浴、排泄、健常状態の事で、担当者からのコメントもある。これが家族等との会話を豊かにしており、「利用者の状況を踏まえた上で意見等も出ている」と言う話しは信憑性がある。また、利用者に「管理者だから」と距離を置いて欲しくないと、手が空いたら各ユニットに出向き、積極的に会話をするなど、管理者は利用者が意見を出しやすい雰囲気を作っている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 職員の意見を聞き、その都度考慮し検討している。	
			(外部評価) 運営法人は各事業所の独自性を大切にしているようで、管理者が事業所内で話し合った事案に対してはなるべく実現できるようにしている。当事業所でも利用者の外出時に雨に濡れないための提案が通り新たに屋外通路に屋根を付けることになった。利用者の生活の質が上がる提案には、その思いを汲み取っている代表者や管理者も積極的で、職員は意見を出しやすい環境である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 定期的な面接を行い、やりがいを持って働けるよう環境整備に努めている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) グループ内での研修への参加を促し、内容を皆で共有できるようにしている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 相互研修へ職員を派遣し、意見交換を行いサービスの質の向上に努めている。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 安心して生活が送れるように、何でも相談ができるよう信頼関係構築に努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等 が困っていること、不安なこと、要望等に 耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 面会、連絡がいつでもできる体制をとっている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と 家族等が「その時」まず必要としている支 援を見極め、他のサービス利用も含めた対 応に努めている	(自己評価) 申し込まれる際に、どのような支援を必要としてい るが、対応に努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場にお かず、暮らしを共にする者同士の関係を築 いている	(自己評価) 共に支え合う気持ちを持ち、できない事を補える関係 を築けるよう努めている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場にお かず、本人と家族の絆を大切にしながら、 共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 行事などへの参加の中で、一緒に過ごす時間を持っ ている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人 や場所との関係が途切れないよう、支援に 努めている	(自己評価) 家族様の協力を得ながら、関係が途切れないように努 めている。 (外部評価) 利用者は比較的事業所の近くに居住していた人が多 く、イベント等で元のご近所さんとお会いすることも多 い。会場で来所者から「居るかなあと思って来てみ た」との会話が聞ける事は、事業所が普段から関係継 続の支援を行っている証である。隣接している小規模 多機能型施設の利用者の中にも馴染みの人がいること もあり、関係継続の支援が日常の生活に入っている事 が分かる。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 生き生きと生活できるように、職員や他のご利用者との関係づくりを支援している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 困ったことがあれば、相談にのれる事を伝えている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 会話や普段の関わりの中から本人の希望や思いを聞きだし、ユニット会などで検討している。 (外部評価) 利用者の日々の暮らしを大切にすることをケアの中心に置いているため、職員は利用者それぞれの思いや意向を把握することには余念がない。そのため利用者をよく見て行動の意味を知ることを重視している。先輩職員は「何故こうするのかは、利用者の話を聞けば分かる」と新人職員に指導している。膝をついた状態で車いすの利用者と話し合っている職員からは、利用者理解が浸透している事が伺える。	現在は入所時のアセスメント票と日々の介護記録から生活歴を読み取っているが、過去の介護記録を見返すことが少ないため、先輩と新人職員では利用者に対して情報格差が生まれてしまう可能性がある。利用者理解をさらに進めるために、別の用紙に生活歴だけを書き取ると整理がし易く見返すことも容易である。取組みを期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 本人や家族、関係者から生活歴を収集し、理解に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 一人ひとりに合った生活が、送れるようにご利用者を把握し、支援に努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 本人や家族の要望、体調の変化を把握した上で、ユニット会で話し合い、介護計画を作成している。	
			(外部評価) 事業所の記録の整備と記載状況を見ると、介護計画もモニタリングもきっちりしている。具体的には、モニタリングは「概ねできている」となっているが、評価には厳しい事が記載されていた。それは、ただやれば良いのではなく、必要なのはそのやり方と受け止め方であり、それを厳しく自己評価した結果と思われる。利用者の生活の質を大切にしている介護計画でありモニタリングである。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 日々の様子などの把握に努め、生活記録に個別に記録している。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 本人、家族の要望に応じ、可能な範囲で柔軟に対応できるように努めている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 地域のボランティアなどから、麦わら細工などの工作の指導を受け、協力しながら行ったりすることが出来ている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 協力医療機関からの定期的な往診や、緊急時の支援が 受けられるようにしている。	
			(外部評価) かかりつけ医は利用者それぞれであるが、法人の関連 総合病院が信頼感が高く、往診がシステム化している 事もあり、かかりつけ医としている利用者が多い。シ ステムには訪問看護ステーションも組み込まれてお り、医療的ケアには安心ができる。眼科や皮膚科など は、家族等と連携し支援を行っているが、医療の専門 的な連携は協力医が調整を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 看護師を配置し、いつもと違う変化があれば報告し、 状況に応じて主治医に報告し、指示を受けている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院時には、家族様の協力を得ながら、早期退院がで きるように支援に努めている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 状態の変化や重度化の場合、話し合いの場を設け、施 設としての考え、主治医の意見を踏まえて支援をして いる。	
			(外部評価) 入居時に本人や家族等に、口から栄養摂取が可能であ る事と医療的ケアは難しい事が、事業所で生活できる 条件と説明している。その後の生活の場は、法人の別 機関に移行する事になっている。運営が多角的な法人 だからできる事で、利用者も家族等も安心である。近 年、事業所では訪問看護を利用した看取りを経験して いる。管理者は、社会制度や新たな施設ができ、事業 所も少しずつ変わっている事を実感している。現在、 事業所のできる事、できない事の枠組みをもう一度確 認しながら、利用者の終末期についてを見つめている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 急変時対応の研修に参加や、消防署から救急対応の訓練などを受ける機会を設けている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年2回の消防訓練や風水害訓練も実施している。災害時には地域の方に協力して頂けるようお願いしている。 (外部評価) 火災等の災害に対する避難訓練は、事業所の年間行事に組み込まれており、消防署の指導の下で隣接している小規模多機能型施設と一緒にやっている。事業所は3ユニットであり小規模多機能型施設の利用者を入れると大世帯になる。人数が多くなると時間的な問題に直面し、毎回、訓練の大切さを実感している。今後は地域の方も交えて訓練することを目標にしており、事業所の災害対策には余念がない。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 自尊心を傷つけない声かけや接し方に努めている。 (外部評価) 訪問した時、リビングには穏やかな空気が流れていた。利用者は職員と一緒にリハビリ体操に励んでいる。ありふれた日常であるが、そこには利用者の安心感があった。その安心感は「自分は大事にされている」ということから来ているようだ。男性職員が多い事業所であるが、穏やかさは事業所が大切にしているケアの基本姿勢から来るのであろう。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 日々の会話や支援の中で、自己決定できる機会を持つように努めている。訴えの難しい方には思いをくみ取るように努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 一人ひとりのペースを大切にした柔軟な支援を行っている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) その日の洋服など、本人が選べるように支援している。毛染めをしたい方への個別に対応している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) ご利用者によっては、食材を刻んだり、下膳やお盆拭きなどのできる事を一緒に行っている。 (外部評価) 3ユニットあるがそれぞれでメニューが異なっていた。利用者の好みを中心に献立を考えているためである。お粥やミキサー、刻み食にも対応しており、ユニット毎に調理には個性がある。「お客があるのなら寿司を出そう」と利用者のリクエストでちらし寿司をお相伴に与った。また、高齢化している利用者も自分なりの役割を果たして食事に参加しており、利用者それぞれの遣り甲斐を支援している様子であった。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) バランスを考えた食事を提供している。一人ひとりの食事や水分量を把握している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後の口腔ケア、うがい等の声かけを行っている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 一人ひとりの排泄パターンの把握に努め、トイレで排泄できるように支援しています。	
			(外部評価) 利用者の殆んどは昼間はトイレで排泄するように支援をしているが、夜間は睡眠を優先するために紙おむつやパットを活用している利用者もいる。利用者の生活の質を見極めた支援と言える。事業所が築14年でトイレの一部が業務優先的な造りになっているが、創意工夫でプライバシー保護と使い勝手が向上するようにしており、職員のやさしさが感じられる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 水分補給、散歩や体操など体を動かすようにしている。便秘の方へは、下剤などを使用している。	
			(外部評価)	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 入浴時間は遅出勤務者が、入浴介助をしている為、こちらの時間に合わせてもらうことが多い。	
			(外部評価) 入浴は、利用者の寛ぐ時間である事に加え、職員は利用者の全身チェックができる機会と捉えている。前者では入浴を無理強いしないこと、後者には職員の専門的な観察眼を養うことを大切にしている。「あの手この手でもらっています」と笑う職員に、それが徹底している事が理解できた。男性職員が多いが、同性介助を要望する利用者が少ない事が、入浴支援が快いものになっている事を示している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 生活リズムを整えるよう支援を心がけている。日中は活動量を多くし、夜間はゆっくり休めるよう努めている。	
			(外部評価)	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 個々が使用している薬の種類を把握し、症状に変化があれば看護師に指示を受け、対応している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 日々の生活の中から、出来ること、出来ないことを把握し役割を見つけ、楽しむことが出来るよう支援している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 天気の良い日は、近くの神社へ散歩に行ったり、季節によっては花を見に行ったりしている。	
			(外部評価) 運営法人が色々な車両を備えているため、車を使っの外出に困ることは無い。そのため遠出には定期的に出かけている。また、日常の外気浴を兼ねた散歩には、庭先から見える神社が最適である。幹線道路から少し入っているため車の往来はなく、安心して散歩が楽しめる。利用者一人ひとりに職員が寄り添っているため、職員自体は長時間歩く場合もある。利用者理解が進む時間でもあるので苦にならないと職員は言うが、利用者の喜ぶ姿を見たい気持ちも大きいようである。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) ユニット内では1人お金を所持している方がおり、使用すれば、家計簿につけて管理している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 携帯電話で家族様に連絡をとられている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 毎月、季節に合ったカレンダーや壁面飾りを作成している。廊下や居室などは不要なものは外している。	
			(外部評価) 共用空間は適度な広さで、見渡すと利用者の細かな表情変化が読み取れる大きさである。季節物の展示は欠かせませんと伺った時は、利用者のぬり絵やはり絵で秋を演出していた。台所がオープンであるため料理の匂いが漂ってくるのも家庭的な雰囲気である。冷暖房は完備しているが、なるべく自然の風を入れたいと空気の流れを考え窓の開閉を職員が小まめにしている。窓からは石鎚連峰が見渡せる心地よい共用空間である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) お話しが好きな方は、同じテーブルに座り、話をされたり、ソファでくつろぐ方もいます。玄関先では休まれる方の為に、ベンチを設置しています。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) お使いになっていたタンスや仏壇、家族様との写真などが飾っている。本人様にとって、危険と感じられる物については持って帰っていただく事もあります。	
			(外部評価) 居室のベッドは介護のことを考え事業所が準備している。ベッドの配置が部屋によって異なっているのは、利用者の身体状況に配慮しているからである。また、利用者によって家具等を持ち込む量に違いはあるが、どの部屋も自分の場所と言う居心地の良さが感じられる。共用空間と適度な距離感を取って居室群を配置している事業所の造りにも居住性の良さが感じられる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) トイレや居室の入り口には、分かりやすく表記している。居室のタンス、引き出しにも表記している。	